

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-330074

(43) Date of publication of application : 15.11.2002

(51)Int.Cl. H03M 7/30  
G06T 3/40  
H04L 29/08  
H04N 1/387  
H04N 1/393  
H04N 1/40  
H04N 1/41  
H04N 1/46  
H04N 1/60  
// H04N 7/24

(21)Application number : 2002-011285 (71)Applicant : MATSUSHITA ELECTRIC IND CO  
LTD

(22) Date of filing : 21.01.2002 (72) Inventor : KOJIMA AKIO

(72)Inventor : KOJIMA AKIO  
WATANABE TATSU  
KUWABARA YASUHIRO  
KUROSAWA TOSHIHARU  
MONOBE YUUSUKE  
OKU HIROTAKA

(30)Priority

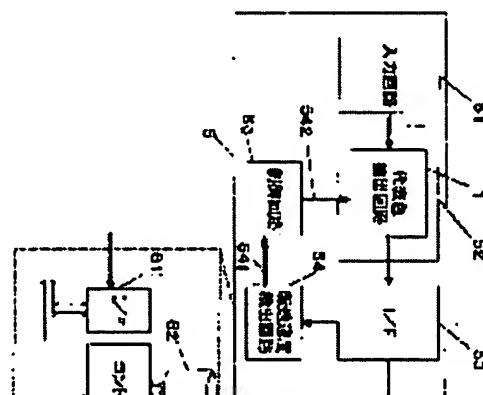
Priority number : 2001012757      Priority date : 22.01.2001      Priority country : JP

(54) METHOD FOR TRANSFERRING DATA, METHOD FOR PROCESSING IMAGE, SYSTEM FOR TRANSFERRING DATA, AND IMAGE PROCESSOR

(57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a method for transferring data, a method for processing image, a system for transferring data and an image processor in which missing of an image is prevented by altering the compression rate depending on the transfer rate between apparatus being connected.

**SOLUTION:** When a detecting means detects the data



transfer capacity of a transmission line and a destination, a control means alters the compression rate of digital data depending on the data transfer capacity. Subsequently, a compressing means compresses digital data based on the altered compression rate and a transfer means transfers the compressed digital data to the destination.

---

#### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-330074

(P2002-330074A)

(43)公開日 平成14年11月15日 (2002.11.15)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>  
H 03 M 7/30  
G 06 T 3/40  
H 04 L 29/08  
H 04 N 1/387  
1/393

識別記号

101

F I  
H 03 M 7/30  
G 06 T 3/40  
H 04 N 1/387  
1/393  
1/41

デ-マコド<sup>8</sup> (参考)  
Z 5 B 0 5 7  
A 5 C 0 5 9  
1 0 1 5 C 0 7 6  
5 C 0 7 7  
Z 5 C 0 7 8

審査請求 未請求 請求項の数22 O L (全 15 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願2002-11285(P2002-11285)  
(22)出願日 平成14年1月21日 (2002.1.21)  
(31)優先権主張番号 特願2001-12757(P2001-12757)  
(32)優先日 平成13年1月22日 (2001.1.22)  
(33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 000005821  
松下電器産業株式会社  
大阪府門真市大字門真1006番地  
(72)発明者 小嶋 章夫  
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内  
(72)発明者 渡辺 辰巳  
大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器  
産業株式会社内  
(74)代理人 100083172  
弁理士 福井 豊明

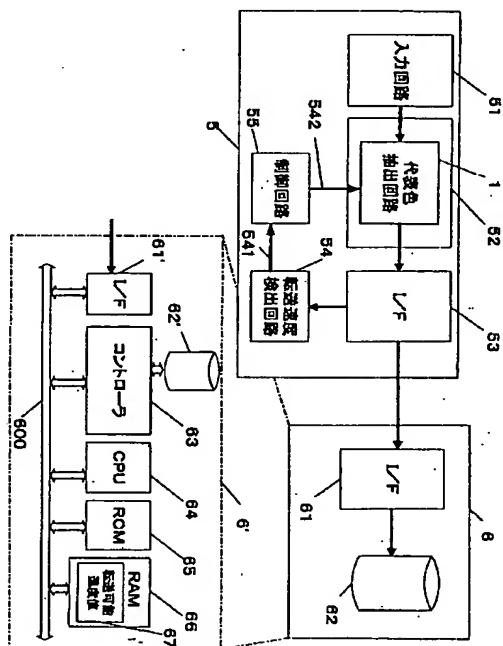
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 データ転送方法、画像処理方法、データ転送システム、及び画像処理装置

(57)【要約】

【課題】 接続する機器間の転送速度に応じて圧縮率を変更し、画像欠落を防止するデータ転送方法、画像処理方法、データ転送システム、及び画像処理装置を提供する。

【解決手段】 検出手段が、伝送路および転送先のデータ転送能力を検出すると、制御手段がそのデータ転送能力に応じて、ディジタルデータの圧縮率を変更する。続いて圧縮手段が変更された圧縮率に基づいてディジタルデータを圧縮し、転送手段がこの圧縮されたディジタルデータを転送先に転送する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 デジタルデータを転送するデータ転送方法において、

転送路および転送先のデータ転送能力を検出するステップと、

前記データ転送能力に応じて、デジタルデータの圧縮率を変更するステップと、

前記変更された圧縮率でデジタルデータを圧縮するステップと、

圧縮されたデジタルデータを転送先に転送するステップと、を備えることを特徴とするデータ転送方法。

【請求項2】 前記圧縮率の変更は、圧縮するか否かの選択を含む請求項1に記載のデータ転送方法。

【請求項3】 前記デジタルデータが画像データであるとき、圧縮に際して当該画像データの処理単位となる複数の画素を含む小領域を少なくとも1つの近似色で置き換える圧縮方法を用いた請求項1記載のデータ転送方法。

【請求項4】 前記圧縮率の変更は、小領域に含まれる画素の数、若しくは、近似色の色数の変更である請求項3記載のデータ転送方法。

【請求項5】 更に、対象となる原稿の種類に応じて処理モードを設定するステップを有し、

前記圧縮率の変更を、前記処理モードに応じて決定する請求項3記載のデータ転送方法。

【請求項6】 前記原稿の種類が「写真画像」、「文字画像」、または「文字画像と写真画像」の少なくともいずれか1つである請求項5記載のデータ転送方法。

【請求項7】 更に、前記画像データを所定の倍率に拡大処理若しくは縮小処理を行うステップと、

前記転送能力と前記所定の倍率に基づいて、代表色を抽出する小領域の大きさを決定するステップと、

前記決定された小領域内から複数の代表色を抽出するステップと、を備える請求項4に記載のデータ転送方法。

【請求項8】 画像データを所定の小領域を単位として処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理方法において、

前記画像データを所定の解像度に変換するステップと、前記所定の解像度に応じて、代表色を抽出する小領域の大きさを決定するステップと、

前記決定された小領域内から複数の代表色を抽出するステップと、を備えることを特徴とする画像処理方法。

【請求項9】 画像データを所定の小領域を単位として処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理方法において、

対象となる原稿によって処理モードを設定するステップと、

設定された処理モードに応じて、代表色を抽出する小領域の大きさ、若しくは所定の代表色数を決定するステップと、

前記決定に基づいて小領域内から所定の代表色数を抽出するステップと、を備えることを特徴とする画像処理方法。

【請求項10】 前記処理モードは、少なくとも「写真画像」、若しくは「文字画像」、若しくは「文字画像と写真画像」である請求項9記載の画像処理方法。

【請求項11】 画像データを所定の小領域を単位として処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理方法において、

前記画像データを所定の倍率に拡大、若しくは縮小するステップと、

前記所定の倍率に応じて、代表色を抽出する小領域の大きさを決定するステップと、

前記決定された小領域内から複数の代表色を抽出するステップと、を備えることを特徴とする画像処理方法。

【請求項12】 デジタルデータを転送するデータ転送システムにおいて、

伝送路および転送先のデータ転送能力を検出する検出手段と、

前記データ転送能力に応じて、デジタルデータの圧縮率を変更する制御手段と、

前記変更された圧縮率に基づいてデジタルデータを圧縮する圧縮手段と、

圧縮されたデジタルデータを転送先に転送する転送手段と、を備えることを特徴とするデータ転送システム。

【請求項13】 前記制御手段が、圧縮するか否かの選択を含む制御をする請求項12に記載のデータ転送システム。

【請求項14】 前記デジタルデータが画像データであるとき、前記圧縮手段として、当該画像データの小領域内を複数の近似色で置き換えることで画像データ量を削減する代表色抽出手段を用いる請求項12記載のデータ転送システム。

【請求項15】 前記圧縮率の変更を、小領域の大きさ、若しくは、近似色の色数を変更することで実行する請求項14に記載のデータ転送システム。

【請求項16】 更に、対象となる原稿の種類に応じて処理モードを変更する処理モード設定手段を備え、前記圧縮率の変更を、処理モードに応じた小領域の大きさ、若しくは、近似色の色数に基づいて変更することを特徴とする請求項14記載のデータ転送システム。

【請求項17】 前記原稿の種類が「写真画像」、「文字画像」、または「文字画像と写真画像」の少なくともいずれか1種である請求項16記載のデータ転送システム。

【請求項18】 更に、前記画像データを所定の倍率に拡大処理若しくは縮小処理を行う解像度変換手段と、前記転送能力と前記所定の倍率に基づいて、代表色の数と当該代表色を抽出する小領域の大きさを決定する前記制御手段と、

前記決定された小領域内から複数の代表色を抽出する前記代表抽出回路と、を備える請求項14に記載のデータ転送システム。

【請求項19】 画像データを所定の小領域を単位として処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理装置において、

前記画像データを所定の解像度に変換する解像度変換手段と、

前記所定の解像度に応じて、代表色を抽出する小領域の大きさを決定する領域決定手段と、

前記決定された小領域内から複数の代表色を抽出する代表色抽出手段と、を備えることを特徴とする画像処理装置。

【請求項20】 画像データを所定の小領域を単位として処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理装置において、

対象となる原稿に基づいて処理モードを設定するモード設定手段と、

設定された処理モードに応じて、代表色を抽出する小領域の大きさ、若しくは所定の代表色数を決定する制御手段と、

前記制御手段による決定に基づいて小領域内から所定の代表色数を抽出する代表色抽出手段と、を備えることを特徴とする画像処理装置。

【請求項21】 前記処理モードは、少なくとも「写真画像」、若しくは「文字画像」、若しくは「文字画像と写真画像」である請求項20記載の画像処理装置。

【請求項22】 画像データを所定の小領域を単位として処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理装置において、

前記画像データを所定の倍率に拡大、若しくは縮小する解像度変換手段と、

前記所定の倍率に応じて、代表色を抽出する小領域の大きさを決定する制御手段と、

前記決定された小領域内から複数の代表色を抽出する代表色抽出手段と、を備えることを特徴とする画像処理装置。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ディジタルデータ、特に画像データを転送するデータ転送方法、画像処理方法、データ転送システム、及び画像処理装置に関するものである。

##### 【0002】

【従来の技術】 たとえばスキャナ（特にハンディスキャナ）やディジタルカメラ等の画像生成手段で生成されたディジタル画像は、所定の伝送路（バス）を介してパソコン等のハードディスクに一旦蓄積され、その後表示あるいは印刷に供されることがある。

##### 【0003】

データの処理能力が転送量に追いつかないときは、画像データを前記バスや転送先の機器の能力に対応するサイズにまで圧縮してから転送処理をすることがなされている。

【0004】 ここで、従来、画質と圧縮率の関係を柔軟に設定できる方法として、ブロックサイズ（後述する）と色数をパラメータとして処理する方法（例えば、特開平9-83809）が知られている。この処理方法について、図13を用いて概要を説明する。

【0005】 この方法は、画像データを複数の画素を含むブロックに分割し、当該ブロックを所定の色数で近似的に表すようになっている。従って、ブロックに含まれる画素数（ブロックサイズ）、あるいは前記色数を変更することによって、圧縮率を変更することができる。

【0006】 ここで、図13において、設定するブロックサイズや近似色数を、パラメータ設定手段91で変更すると、それらのパラメータから一義に定まる圧縮率を圧縮手段94に設定する。前記圧縮手段94は圧縮率を、蓄積手段95のメモリ容量との整合性に基づいて設定することができる。この構成において、圧縮手段94は入力手段92で生成された各ブロック領域から、近似色を抽出し、ブロック毎に蓄積手段95に蓄積する。

##### 【0007】

【発明が解決しようとする課題】 このように従来の画像処理方法では、メモリ容量との整合性に基づいて圧縮率を設定しており、所望の画質と圧縮率を得るには、ブロックサイズと近似色数をパラメータとして設定していく。

【0008】 一方、特定の機器から他の特定の機器へデータ転送をする場合（例えばハンディスキャナにパソコンを接続し、当該ハンディスキャナからパソコンにデータ転送する場合）を考察すると、当該ハンディスキャナには、バッファ機能を備えたメモリが配設される。しかしながら、容積上の観点および価格上の観点から、バッファ機能を有する大きな容量のメモリを搭載することはできない。従って、充分な転送速度を確保しておかないと、バッファがオーバフローして、データ欠落が発生することになるため、圧縮率は機器間のデータ転送速度との関係において決定する必要がある。

【0009】 また、ハンディスキャナなどのように原稿面をイメージセンサを手で走査して読み取る機器では、走査の停止、加速を繰り返すことで転送するデータ量を調整し、バッファメモリが小容量であるがために発生する前記データ欠落の発生を防止していた。しかしながら、この方法では読み取り画像位置のばらつき、速度変動等により画質劣化が生じ、また、ユーザの走査技術の未熟さに起因する画質のばらつきも大きかった。この場合、バッファメモリを大きくすることで、転送速度を調整できるが、コストが高くなるといった問題がある。

【0010】 本発明は、上記従来の事情に鑑みて提案さ

れたものであって、接続する機器間の転送速度に応じて圧縮率を変更し、画像欠落を防止するデータ転送方法、画像処理方法、データ転送システム、及び画像処理装置を提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】以上の課題を解決するために本発明に係るデータ転送システムでは、以下の手段を採用している。即ち、ディジタルデータを転送するデータ転送システムを前提としている。ここで、上記データ転送システムを構成する検出手段が、伝送路および転送先のデータ転送能力を検出すると、制御手段がそのデータ転送能力に応じて、ディジタルデータの圧縮率を変更する。続いて圧縮手段が変更された圧縮率に基づいてディジタルデータを圧縮し、転送手段がこの圧縮されたディジタルデータを転送先に転送する。

【0012】従って、転送速度に応じてディジタルデータが圧縮されることで、転送元あるいは転送先の機器のバッファメモリの容量が小さくても、欠落無く転送先の機器にディジタルデータを格納することができる。

【0013】尚、制御手段が、圧縮するか否かの選択を含む制御をする構成としてもよい。

【0014】また、ディジタルデータが画像データであるとき、圧縮手段として、当該画像データの小領域内を複数の近似色で置き換えることで画像データ量を削減する代表色抽出手段を用いる構成としてもよい。さらに、圧縮率の変更を、小領域の大きさ、若しくは、近似色の色数を変更することで実行してもよい。

【0015】また更に、対象となる原稿の種類に応じて処理モードを変更する処理モード設定手段を備え、圧縮率の変更を、処理モードに応じた小領域の大きさ、若しくは、近似色の色数に基づいて変更する構成がある。

【0016】以上により、対象とする原稿の種類に応じて最適な制御パラメータを設定することで、画像データの劣化を抑えることができ、高精度な画像転送が実現できるという効果を持つ。尚、上記原稿の種類は、例えば「写真画像」、「文字画像」、または「文字画像と写真画像」の少なくともいずれか1種としてもよい。

【0017】また更に、画像データを所定の倍率に拡大処理若しくは縮小処理を行う解像度変換手段を備え、前記制御手段が、前記転送能力と前記所定の倍率に基づいて、代表色の数と当該代表色を抽出する小領域の大きさを決定するし、前記代表抽出回路が、決定された小領域内から複数の代表色を抽出する構成としてもよい。

【0018】この構成では、解像度若しくは拡大処理・縮小処理をした場合には、転送速度に加えて解像度をも考慮して代表色を抽出する領域の大きさを変更するため、画素間の濃度の変化率のパターンを保持でき、画質劣化を抑えることができる。また、画質を維持しながら圧縮率を向上させることができるとなる。

【0019】又、画像データを所定の小領域を単位とし

10

20

30

40

50

て処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理装置を前提とする構成がある。この構成において、解像度変換手段が前記画像データを所定の解像度に変換し、領域決定手段が所定の解像度に応じて代表色を抽出する小領域の大きさを決定し、代表色抽出手段が、決定された小領域内から複数の代表色を抽出する。

【0020】従って、解像度に応じて代表色を抽出する領域の大きさを変更することで、高周波のパターンを保持でき、画質劣化を抑えることができる。また、画質を維持しながら圧縮率を向上できる。

【0021】尚、画像データを所定の小領域を単位として処理し、小領域内を複数の代表色で近似する画像処理装置を前提とする構成にて、モード設定手段が、対象となる原稿に基づいて処理モードを設定し、制御手段が、設定された処理モードに応じて代表色を抽出する小領域の大きさ、若しくは所定の代表色数を決定し、代表色抽出手段が、制御手段による決定に基づいて小領域内から所定の代表色数を抽出する構成や、解像度変換手段が、画像データを所定の倍率に拡大、若しくは縮小し、制御手段が、所定の倍率に応じて代表色を抽出する小領域の大きさを決定し、代表色抽出手段が、決定された小領域内から複数の代表色を抽出する構成がある。

【0022】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について図面を参照しながら説明する。本発明において、ディジタルデータの転送元となる機器、および転送先となる機器は基本的には何を用いてもよいが、以下の各実施の形態では、転送元となる機器に画像入力装置を、また、転送先となる機器にパーソナルコンピュータを用いた例を示した。

【0023】(第1の実施の形態)図1、図2を用いて本発明の第1の実施の形態について説明する。

【0024】図1は、本発明の第1の実施の形態による画像処理装置のブロック図、図2は制御パラメータの説明図である。

【0025】図1では、ディジタルデータの転送元となる画像入力装置5を転送先機器に接続した場合の動作説明を行う。画像入力装置および、転送先機器は特定されるものではないが、本実施形態では画像入力装置としてハンディスキャナを用い、当該ハンディスキャナを転送先機器としてのパーソナルコンピュータ6(以下、PC6と記す)に接続した例について説明する。尚、図1におけるPC6の構成の詳細を示したもののが一点破線にて示されたPC6'である。つまりPC6は、インターフェース(以下、I/Fと記す)61'、HDD62'、コントローラ63'、CPU64'、ROM65'、RAM66'など、これらを接続するバス600より構成される。また、RAM66'には転送可能速度値67が格納される。

【0026】まず、画像入力装置5は例えばCCD素子のような入力回路51から入力された画像データを圧縮

回路52に入力するようになっており、ここで圧縮された画像データが、I/F53を介して外部に出力されるようになっている。

【0027】ここで上記画像入力装置5をPC6に接続すると、当該画像入力回路5の転送速度検出回路54は、I/F53からPC6へのデータの転送可能速度である転送速度を検出するようになっている。

【0028】ここでPC6への転送速度は、例えばHDD62(HDD62')の書き込み速度、読み出し速度、バス600の転送速度、HDDのコントローラ63の性能、CPU64の処理速度、一時記憶メモリ(RAM)66の書き込み/読み出し速度、I/F61(I/F61')の応答速度、更に、I/F53とI/F61を結ぶバスの転送能力(速度)等を総合的にみて判断されるようになっている。すなわち、上記各速度の中で最小の転送速度をもつデバイスに合わせて設定することで、リアルタイムに転送されるデータの速度を保証する事ができる。

【0029】ここで、上記PC6を構成する各デバイス(61~67)の転送速度(処理速度、応答速度等)は、PC6を構成するROM65にあらかじめ書き込んでおくことによって、CPU64は最小の上記転送速度を検出(検索)し、転送可能速度値67としてRAM67に格納する事ができる。CPU64はこのようにして検出した転送可能速度値67、即ち転送可能な最大速度を外部機器(この場合画像入力装置5)からの問い合わせに対して、転送速度として通知することになる。

【0030】また、上記転送速度を決定する他の方法として、CPU64がHDD62へ、バス600経由で、テストデータの書き込みを行うことで、転送可能速度値67を計算し、RAM66に一時記憶することでも実現できる。このようなテストデータの書き込みを実行するプログラムをPC6に予め搭載する事で、CPU64の応答速度も含めた総合的な転送可能速度値67が検出できる。CPU64は、外部機器からの問い合わせに応じて、上記のようにRAM66に保持した転送可能速度値67に基づいて、転送速度を通知することになる。

【0031】上記通知は、画像入力装置5とPC6との間で交わされるネゴシエーション時に、当該ネゴシエーションのための初期設定データの中に速度コードフィールドを設け、上記ROM65に書き込まれた、あるいは、上記書き込みテストで得た転送速度を当該フィールドに書き込むことでなされる。

【0032】次に、画像入力装置5とPC6とをつなぐ伝送路の転送速度の検出方法は、例えば、当該伝送路がUSB(ユニバーサル・シリアル・バス)であれば、画像入力装置5側のI/F53が、2本の信号ピンのいずれの側が「H」になっているかで、PC6側がフル・スピードの転送能力を持っているか、あるいは、ロー・スピードの転送能力を持っているかの判断をする。ここで

10

20

30

30

40

50

フル・スピードは、USB1.1規格であれば12Mbps、ロー・スピードであれば1.5Mbpsとなる(USB2.0規格であれば480Mbpsと2.0Mbps)。その他、CPU64から、ROM65に格納されている上記I/F61の応答速度(処理速度)を受信してもよいし、I/F53からテストデータを送信し、当該送信に対する返信をもって転送能力を判断することで、伝送路の転送速度を検出してもよい。

【0033】上記転送速度検出回路54は上記のようにしてPC6から転送されたPC6側の転送速度、および、上記I/F53が検出した伝送路の転送速度に基づいて転送速度を決定することになる。

【0034】一方、上記のように入力回路51から読み取られた画像データは圧縮回路52によって圧縮される。ここでの圧縮率は、制御回路55から予め決定されるパラメータに応じて以下のように設定される。

【0035】制御回路55は、転送速度検出回路54が検出した上記転送速度に応じて圧縮率を決定し、圧縮回路52にパラメータを設定する。

【0036】本発明の実施の形態において使用される圧縮方法(圧縮回路52)は特に限定されるものではなく、削減するデータ量が予測可能であれば、何でも良い。ここでは、その一実施形態として、後述する代表色抽出回路1を用いる。この方式は、対象となる画像データを、複数の画素を含む小領域を単位として抽出された代表色(近似色)代表色で表現するようになっている。

【0037】この方法によると、代表色の数(近似色数)と前記小領域の大きさ(画素数)を制御パラメータとして、圧縮率を固定長で変更できる。

【0038】圧縮率は、  

$$\text{圧縮率} = (\text{近似色数} / \text{小領域内の画素数}) + (\text{色のインデックス情報ビット数} / \text{RGBビット数})$$
 となる。上記において、色のインデックスとは各代表色に付けられた番号であり、例えば下記のビット数で表される。

【0039】\*色のインデックス情報:  
 近似色数2の場合は1ビット  
 近似色数4の場合は2ビット  
 近似色数8の場合は3ビット  
 \*RGBビット数は各色8ビットとした場合:  

$$8 + 8 + 8 = 24 \text{ビット}$$

図2に、設定モード(前記近似色数と小領域の大きさによって決定される設定のタイプ)毎の圧縮率を図示する。制御回路55には、予め近似色数と小領域の大きさ(画素の数)とを対とした設定モード(圧縮率)が設定されており、制御回路55は前記のように検出した転送速度に対応して設定モード(図2左端欄)を選択し、対応する制御パラメータを圧縮回路52に設定する。

【0040】入力回路51より出力された画像データは圧縮回路52で前記制御パラメータに従って圧縮され、

次いで、I/F 5 3 を経由して、PC 6 側の I/F 6 1 に転送され、HDD 6 2 に保存される。前記において、圧縮率は当該伝送路の転送能力や記憶手段 6 2 の書き込み速度（転送速度）を考慮した圧縮率になっているので、欠落無く HDD 6 2 に画像データを格納することができることになる。

【0041】尚、前記においては画像入力装置を例に説明したが、本発明は、データを圧縮して、当該データを接続された転送先の機器に転送する構成のすべてに対し、適用することができる技術である。

【0042】例えば、PC 6 の I/F 6 1 と HDD 6 2 の間に本発明の画像入力装置 5 に類する装置（但し、ディジタルデータの処理であればよく、必ずしも画像データを処理する必要は無い）を備えることで、HDD 6 2 の R/W 能力に応じて、データの圧縮率を決定して格納するので、データを欠落無く書き込み、又は、読み出しが行うことができる。

【0043】続いて、前記代表色抽出回路 1 における処理の詳細について説明する。代表色抽出方法は、リアルタイム処理に最適な固定長符号化方法の一例である。この符号化方法は、対象となる画像データから、代表色（近似色）を抽出し、前記小領域を該代表色で表現することで画像データサイズを圧縮するものであることは上述した通りである。

【0044】この処理において色空間を構成する色は特定されるものではないが、R（レッド）、G（グリーン）、B（ブルー）空間を本発明の一実施形態として説明を行う（以下、レッドを「R」、グリーンを「G」、ブルーを「B」と記す）。

【0045】代表色抽出方法の一実施形態について、図 3、図 4、図 5、図 6、図 7 を用いて、さらに詳細に説明する。

【0046】図 3 を用いて代表色抽出処理の流れを説明する。図 3 は、代表色抽出処理のフローチャートである。

【0047】図 3において、処理が開始されると、対象となる小領域を構成する各画素の濃度値を各色ごとにすべて加算した後に、加算した数で割ることで、各色の平均値を算出する（ステップ S00 → S101）。

【0048】次に、各色の分散度を算出する（ステップ S103）。分散度を算出する簡易な方法として、各画素毎に前記各色の平均値との差の絶対値を求め、当該差の絶対値をすべて累積（加算）する方法がある。ここで、以下に説明するグループ分割処理が実行されたあとであれば、分割処理によって生成された、各グループにおける各色の分散度を算出する。これによって、以下に説明するように、分割によって得られた各グループでの分散度が最大の色を検出し、当該検出された色について、更に 2 つのグループに分割処理することになる。

【0049】次に、分散度が最も大きい色を検出し、着

目色とする。今、分散度は G が一番大きいとすると、G が着目色となる（ステップ S105）。

【0050】次に、着目色の平均値を用いて、小領域内を 2 つのグループに分割する。今、着目色は G なので、G の平均値を基準に G 軸上の領域を分割処理する。この分割は、平均値より大きいか、小さいかの比較処理の結果に基づいて実行される（ステップ S107）。

【0051】次に、2 つのグループに分割された結果得られる領域情報（各画素がどの代表色の領域に属するかの情報）と、各グループの代表色を算出する。代表色は、各グループ内における各画素の濃度値の平均値とする。ここで得られた領域情報と、代表色は中間符号化データとして、一時記憶する（ステップ S109）。

【0052】次に、得られた代表色の色数が所望の色数（例えば前記制御回路が設定した色数）以上かどうか判断し、色数が所望の色数以上であれば、分割処理を終了する。不足していれば、再び、前記分散度の算出処理（ステップ S103）に戻り分割処理を繰り返す（ステップ S111）。

【0053】以上の処理を n 回繰り返すことで、2 のグループと、各グループの代表色を抽出することができるようになる。また、所望する代表色の色数が得られた場合は、分割処理を終了する（ステップ S01）。また、次の対象となる小領域へ進み、再び、前記一連の処理が実行されることになる。

【0054】ここで、代表色抽出方法の動作の詳細について図 4 を用いて説明する。図 4 は、代表色抽出回路 1 のブロック図である。

【0055】図 4において、平均値算出回路 11 は小領域内にある各色画素の濃度値  $Rin$ （レッド入力）、 $Gin$ （グリーン入力）、 $Bin$ （ブルー入力）を各色ごとにすべて加算し、加算数で割ることで、各色の平均値  $Rave$ （レッド平均値）、 $Gave$ （グリーン平均値）、 $Bave$ （ブルー平均値）を算出する。小領域領域内の画素数を  $N$  とするとき、 $Rave = (\Sigma Rin) / N$ 、 $Gave = (\Sigma Gin) / N$ 、 $Bave = (\Sigma Bin) / N$  となる。

【0056】次に、第 1 選択回路 13 は、制御信号 100 が「H」の時は、平均値算出回路 11 の出力信号（ $Rave, Gave, Bave$ ）を選択し、制御信号 100 が「L」の時は、一時記憶 17 に保持された代表色  $C_n$ （n：最初の小領域を区分するサフィックス）と領域情報  $R_{i,j}$ （i, j：画素の位置を示すサフィックスであり、i の方向と j の方向は直交する。図 5 参照）を選択し、選択信号（ $S_{Rave}, S_{Gave}, S_{Bave}$ ）を出力する。制御信号 100 は、第 1 回目の分割サイクルでは「H」となり、平均値出力回路 11 の出力が入力され、2 回目以降は「L」となって一時記憶回路の出力が入力される。

【0057】次に分散度算出回路 12 は、各色の分散度  $Rd, Gd, Bd$  を算出する。簡易な方法として、各画素毎に平均値との差の絶対値を求めて、累積（加算）することで分

散度を算出する。ここで、分散度 $Rd = \sum ABS(Rin - SRave)$ 、 $Gd = \sum ABS(Gin - SGave)$ 、 $Bd = \sum ABS(Bin - SBave)$ となる。尚、 $ABS()$ は絶対値を示す演算子である。また、一度、2つのグループに分割処理された後であれば、各グループ毎の各色の分散度を算出する。これは、後述するように分割された領域で、分散度の大きい色を見つけ、分散度が大きい色から順次に分割するためである。

【0058】次に、最大値検出回路14は、分散度の最も大きい色を着目色として検出する。今、分散度が、 $Gd > Rd > Bd$ とするとGが着目色となる。

【0059】次に、第2選択回路15は、最大値検出回路14から得られる選択信号(Sel)141によって着目色の平均値を選択する。今、着目色はGなので、平均値SaveはSave=SGaveとなる。

【0060】次に、領域分割回路16は、選択された着目色の平均値を用いて、対象の小領域を2つのグループに分割する。今、着目色はGなので、G軸上で大小比較を行い、対象の小領域を分割する。すなわち、図5に示すように領域情報RijはGin>Saveのとき「1」、Gin<=Saveのとき「0」である。また、それぞれのグループ毎に2つの代表色Cnを算出する。例えば、領域情報が「1」に属する各色画素の平均値をC0、Rijが「0」に属する各色画素の平均値をC1とする。

【0061】次に、代表色161と領域情報162は、一時記憶回路17で保持され、2回目以降の分割処理で利用される。

【0062】ここで、図5を用いて具体的に数値処理した一実施形態を説明する。図5は、代表色抽出回路1の処理過程を示す説明図である。

【0063】図5において、左欄には処理対象となる各色の入力信号rij, gij, bijを記載している。各色毎の入力信号rij, gij, bijに対する平均値は、Rave=11.6875、Gave=10.3125、Bave=9.8125であり、各色の分散値は、Rd=22.25、Gd=31.75、Bd=21.375となる。ここで、分散値が最も大きい色はGなので、着目色としてGを選択する。よって、Save=10.3125となる。このGの平均値を用いて対象となる領域を、更に、以下に説明するように、対象の小領域をさらに小さい領域であるセクションに分割する。

【0064】すなわち、gij>Saveのとき、Rij=1で表すことができるセクション502と、gij<=Saveのとき、Rij=0で表されるセクション503に分割することができ、更に、領域情報504a (Rij) が生成される。このとき、代表色Cnは、C0とC1が生成される。ここで、C0は領域情報Rijが「1」に属する各色画素の平均値 (Ra, Ga, Ba) であり、C1は領域情報Rijが「0」に属する各色画素の平均値 (Rb, Gb, Bb) である。

【0065】実際の平均値は、Ra=12.6、Ga=11.9、Ba 50

=10.4、Rb=10.16667、Gb=7.666667、Bb=8.833333となるが、小数点以下を四捨五入して、Ra=13、Ga=12、Ba=10、Rb=10、Gb=8、Bb=9に整数化処理している。

【0066】次の分割処理を実行する場合は、対象小領域としてセクション502とセクション503を選択し、各対象小領域について前記と同様の分割処理を実行すればよい。

【0067】次に、領域情報Rijの保持方法について説明する。

【0068】図6は、領域情報を保持するときの説明図である。代表色抽出回路1は、分割処理を繰り返す毎に領域情報Rijと、各領域の代表色Cnを出力する。図4に示すように、分割処理を繰り返す毎に、各処理階層で領域情報Rijを一時記憶回路17の各情報ビットに記憶させる。必要な代表色が8色であれば、分割処理は第3階層まで繰り返し行われるので、領域情報Rijの各ビットは3ビット必要となる。第1階層を第3ビット目(504a)に、第2階層を第2ビット目(504b)に、第3階層を第1ビット目(504c)に保持する。ここで、階層とビット番号は、特に定める必要はないが、各処理階層毎に独立して特定ビットに保持する。

【0069】これによって、各処理階層毎に参照するビットを特定することができる。例えば、第2階層のP10、P11の処理が行われる時は、第1階層で作成された第3ビットを参照すればよい。また、第3階層のP20～P23の処理が行われる時は、第1階層、第2階層で作成された第3ビット(504a)、第2ビット(504b)を参照すればよい。このように、直前までの分割処理で作成された領域情報Rijを参照すればよい。

【0070】次に、上記画像入力装置からPC6へ転送される符号化データを説明する。図7は、符号化データの構成図である。

【0071】図7において、第nブロック目の符号化データ508は固定長であり、代表色が格納される代表色フィールドFCnと領域情報データが格納される領域情報フィールドFRnより構成され、代表色フィールドFCnには、使用される代表色Cn (=R、G、Bの各濃度値) が、また、領域情報フィールドFRnには、各画素がどの代表色に対応するかが書き込まれる。ここでは、抽出した代表色を8色とし、小領域を4×4の16画素とする。小領域を2色で近似するには、以下の様に処理する。2色の近似データをC2a、C2bとすると、各代表色の符号化データC000～C111を用いて、 $C2a = (C000 + C001 + C010 + C011) \div 4$ 、 $C2b = (C100 + C101 + C110 + C111) \div 4$ の演算を行うことで得ることができる。各画素の表示色Cijは図5の右端欄(条件505)に示すように、C2a、C2bを領域情報Rij(504a)の「1」「0」に対応して条件505より決定される。

【0072】また、4色の近似データC4a、C4b、

$C4c, C4d$ を得ようとする場合は、前記符号化データの  $C000 \sim C111$  を用いて、 $C4a = (C000 + C001) \div 2, C4b = (C010 + C011) \div 2, C4c = (C100 + C101) \div 2, C4d = (C110 + C111) \div 2$  の演算を行う。以上により必要な色数を計算する。

【0073】(第2の実施の形態) 第1の実施形態は、接続機器とのデータの転送能力を検出し、転送能力に応じて圧縮率を変更して圧縮データを転送することでデータの欠落を防止するようになっている。

【0074】ここで処理の対象となる画像原稿としては写真原稿、文字原稿、文字・写真原稿がある。原稿の特徴に応じて必要な解像度は異なるので、原稿の種類に対応した処理が必要となる。特に、圧縮回路52に代表色抽出回路1を用いる場合は、必要な解像度に応じて小領域の大きさを変更する構成とすることで、画質の劣化を抑えることができる。

【0075】図8、図9を用いて本発明の第2の実施の形態による画像処理装置を説明する。

【0076】図8は本発明の第2の実施の形態による画像処理装置のブロック図、図9は第2の実施の形態による処理モードの説明図である。

【0077】本発明の第1の実施の形態と異なるところは、制御回路55に、例えば原稿の種別を判断可能な処理モード設定回路56から、処理モードを設定するよう変更したところである。

【0078】まず、制御回路55は、転送速度検出回路54からの転送速度情報541と、処理モード設定回路56からの処理モード543とにより、最適な圧縮率である設定モードを選択する。図9に図示するように、例えば処理モードとして前記処理モード設定回路56が原稿の種別を判別して得た「写真モード」と「文字モード」がある。それぞれ、原稿が「写真画像」の場合には「写真モード」が、「文字画像」の場合には「文字モード」が対応する。よって、制御回路55は、前記処理モード設定回路より送信された処理モード543が「写真モード」であれば、設定モードに「3」又は、「4」を選択する。また、「文字モード」であれば、設定モードに「1」又は、「2」を選択する。続いて制御回路55は、選択した設定モードに基づいて、小領域の大きさ、若しくは所定の代表色数を決定する。次に、前記制御回路55は、当該決定した小領域の大きさ、若しくは所定の代表色数をパラメータとして代表色抽出回路1に送信する。

【0079】前記代表色抽出回路1は、前記パラメータを受け取ると当該パラメータの決定に基づいて小領域から所定の代表色数を抽出する。

【0080】尚、処理モードとして、「文字モード」、「写真モード」としたが、原稿に「文字画像」と「写真画像」が含まれる場合には「文字写真モード」を設定し

ても良い。対象原稿に応じて、処理モードを特定できれば、設定内容の制限はない。「地図モード」、「拡大縮小モード」など、対象となる原稿、画像処理に最適な制御パラメータを設定することで、画質劣化を抑えることができる。

【0081】以上、第2の実施の形態によれば、対象とする原稿、画像処理に応じて、最適な制御パラメータを設定することで、画像の劣化を抑えることができる。よって、高精度な画像転送が実現できる。

【0082】(第3の実施の形態) 代表色抽出方法は人間の視覚特性を応用したものであり、視覚的な劣化を抑えた代表色抽出を行うには、設定する解像度と代表色を抽出する対象領域の大きさの関係が重要である。よって、解像度の変換率の設定に応じて、代表色を抽出する対象領域の大きさを変更する。すなわち、解像度が高い時は大きな領域を対象にし、解像度が低いときは小さい領域を対象にすることで、視覚的な劣化を抑えることができる。以下、図10、図11、図12を用いて本発明の第3の実施の形態による画像処理装置を説明する。

【0083】図10は、本発明の第3の実施の形態による画像処理装置のブロック図、図11は解像度変換処理の説明図、図12は拡大縮小処理の説明図である。

【0084】図10において、入力回路3から取り込んだ画像の解像度は解像度変換回路2によって高解像度から低解像度に変換される。解像度設定回路4は解像度設定を信号401によって、解像度変換回路2、制御回路55に与える。ここで、例えば、通常は400dpiの設定から200dpiに解像度が変更されると、図11に図示するように、解像度変換回路2は隣接画素を2個ずつを単位として同じ値に変換する。次に、前記制御回路55は、得られた所定の解像度設定に応じて、例えば小領域の大きさを半分に設定(決定)する。すなわち、400dpiのとき4画素×4画素の小領域を対象とした場合には、200dpiのとき2画素×2画素が対象領域となる。これによって、原稿濃度の変化が粗くなつた分、処理精度をあげることになり、画質劣化を抑えることができる。続いて、前記代表色抽出回路1は、前記制御回路55により設定(決定)された領域から代表色を抽出し、インターフェース7(以下、I/F7と記す)に画像データを出力する。

【0085】ここで、解像度変換処理について図11を用いて、詳細に説明する。図11に図示するように、400dpiを200dpiに変更する場合は、信号(データ)300と信号(データ)301のいずれかの値を、隣接画素に複写する。例えば、信号301を信号302と信号303に複写する。これによって、400dpiの白黒バターンは解像度の低下によって消えてしまう。実際の処理では、信号302と信号303は同じ値なので、いずれか一方を残すように間引き処理される。

これは、縮小処理となる。よって、解像度変換と拡大縮

50

小は、回路的には近い処理（又は、同じ処理）として扱われる。画素数が変わることを拡大縮小とし、画素数が変わらなく、解像度だけを落とすことを解像度変換と一般的に定義されるが、本発明では、両方を解像度変換としている。よって、拡大処理と縮小処理を行う場合は、解像度変換回路2は、画像を所定の場合に拡大又は縮小する変倍処理手段として用いられることになる。又、解像度設定回路4では、倍率を設定することになる。この倍率に応じて、解像度変換回路2は、画素補間法、ニアリストネイバー法、バイリニア法、バイキューピック法、直交変換法（DCT変換法、ウェーブレット変換法）等を用いて画素数の増減を行い、拡大処理、縮小処理を実行する。

【0086】図12を用いて、原稿画像を拡大処理、縮小処理した場合の説明を行う。図12(c)に図示するように、原画を拡大処理すると画素数が増大する。この場合は、より大きな領域から代表色を抽出しても画像劣化は少ない。よって、より大きな領域より代表色を抽出することで、圧縮率を稼ぐことができる。一方、図12(a)に図示するように、縮小処理すると画素数が減少する。よって、原画上のパターンの空間周波数は高くなるので、解像度を高くした処理が必要となる。そのため、小領域の大きさを、より小さく設定することが望ましい。小さく設定することで、空間周波数の高いパターンも保持できるので、画質を向上できる。

【0087】ところで、前記の実施の形態1あるいは2で設定された圧縮率は、入力回路3より得られる画像データ（例えば4000DPの画像データ）に対して解像度変換がなされていないことを前提としている。しかしながら解像度変換回路2で解像度が変換（拡大あるいは縮小）された場合には、上記制御回路5は、上記転送速度検出回路54から得られるデータにのみ基づいて圧縮率を決定しても不十分である。

【0088】すなわち、前記図12(b)の原画から同図(a)に示すように低解像度に変換されている（縮小されている）ときには、上記のように処理対象を解像度に応じてより小さい領域に設定した状態で、要求される圧縮率を満足するモードを選択する必要がある（例えば色数を少なくする）。逆に、前記図12(b)の原画から同図(c)に示すように高解像度に変換されている（拡大されている）ときには、上記のように解像度に応じたより大きな領域に設定した状態で、要求される圧縮率を満足するモードを選択する必要がある（例えば色数を増やせる）。

【0089】以上、第3の実施の形態によれば、解像度に応じて代表色を抽出する領域の大きさを変更することで、高周波のパターンを保持でき、画質劣化を抑えることができる。また、画質を維持しながら、圧縮率を向上できる。

【0090】なお、本発明の各実施の形態は、DSP、

若しくはCPUによるソフトウェア処理によっても実現できるし、ハードウェアによっても実現することができる。

【0091】また、本発明は上記の各実施の形態で説明した静止画像の処理に対して適用できることはもちろん、動画に対して適用することも可能である。本発明を動画に適用する場合には、圧縮率の変更方法として例えば、単位時間当たりのフレーム数を増減させる方法等、様々な方法を採用することができる。

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、転送速度に応じてデジタルデータが圧縮されることで、転送元あるいは転送先の機器のバッファメモリの容量が小さくても欠落無く、転送先の機器にデジタルデータを格納することができるという効果を持つ。

【0093】また、上記転送対象のデジタルデータが画像データであるとき、対象とする原稿の種類に応じて最適な制御パラメータを設定する構成を採用することで、画像データの劣化を抑えることができ、高精度な画像転送が実現できるという効果を持つ。

【0094】更に、解像度若しくは拡大処理・縮小処理をした場合には、前記転送速度に加えて解像度をも考慮して代表色を抽出する領域の大きさを変更する場合には、画素間の濃度の変化率のパターンを保持でき、画質劣化を抑えることができる。また、画質を維持しながら圧縮率を向上できるという効果を持つ。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態における画像処理装置のブロック図

【図2】本発明の第1の実施の形態における制御パラメータの説明図

【図3】本発明の第1の実施の形態における代表色抽出処理のフローチャート

【図4】本発明の第1の実施の形態における代表色抽出回路1のブロック図

【図5】本発明の第1の実施の形態における代表色抽出回路1の説明図

【図6】本発明の第1の実施の形態における領域情報保持の説明図

【図7】本発明の第1の実施の形態における符号化データの構成図

【図8】本発明の第2の実施の形態における画像処理装置のブロック図

【図9】本発明の第2の実施の形態における処理モードの説明図

【図10】本発明の第3の実施の形態における画像処理装置のブロック図

【図11】本発明の第3の実施の形態における解像度変換処理の説明図

【図12】本発明の第3の実施の形態における拡大・縮

## 小の説明図

【図13】従来の画像処理装置の構成を示すブロック図

【符号の説明】

- 1 代表色抽出回路
- 2 解像度変換回路
- 3 入力回路
- 4 解像度設定回路
- 5 画像入力装置
- 6 パーソナルコンピュータ (PC)
- 7 インターフェース
- 11 平均値算出回路
- 12 分散度算出回路
- 13 第1選択回路

\* 14 最大値検出回路

15 第2選択回路

16 領域分割回路

17 一時記憶回路

51 入力回路

52 圧縮回路

53 インターフェース

54 転送速度検出回路

55 制御回路

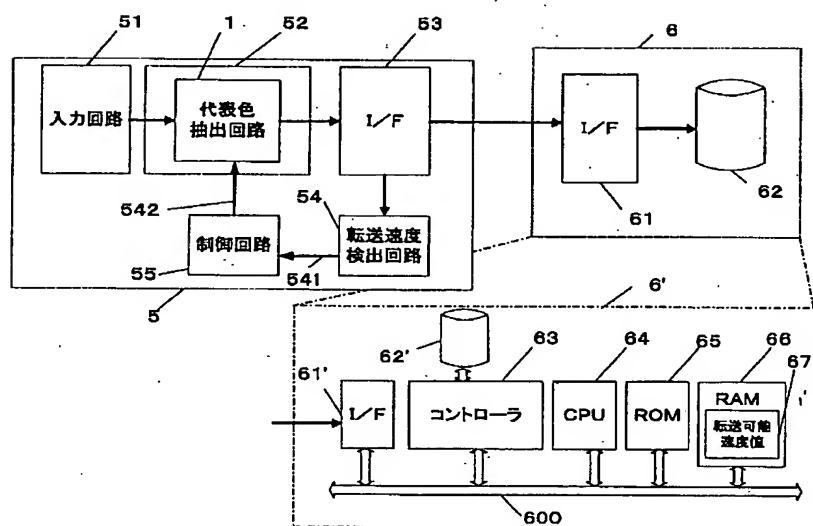
10 56 処理モード設定回路

61 インターフェース

62 記憶装置 (HDD)

\*

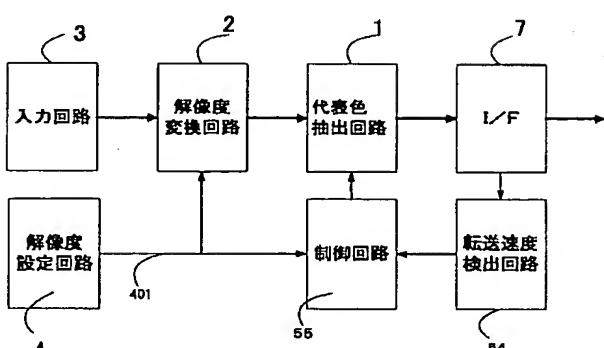
【図1】



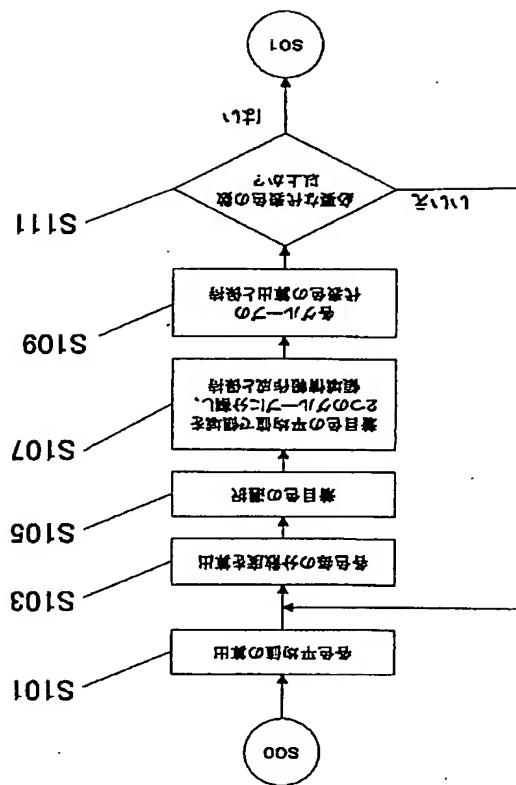
【図2】

【図10】

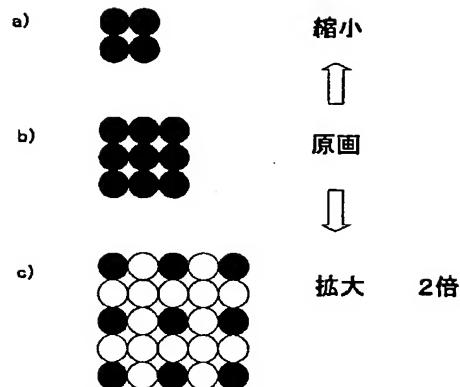
		射出パラメータ	
設定モード	圧縮率	小領域の大きさ	近似色数
1	1/6	4X4	2
2	1/3	4X4	4
3	1/4	8X8	8
4	1/6.4	16X16	8



【図3】



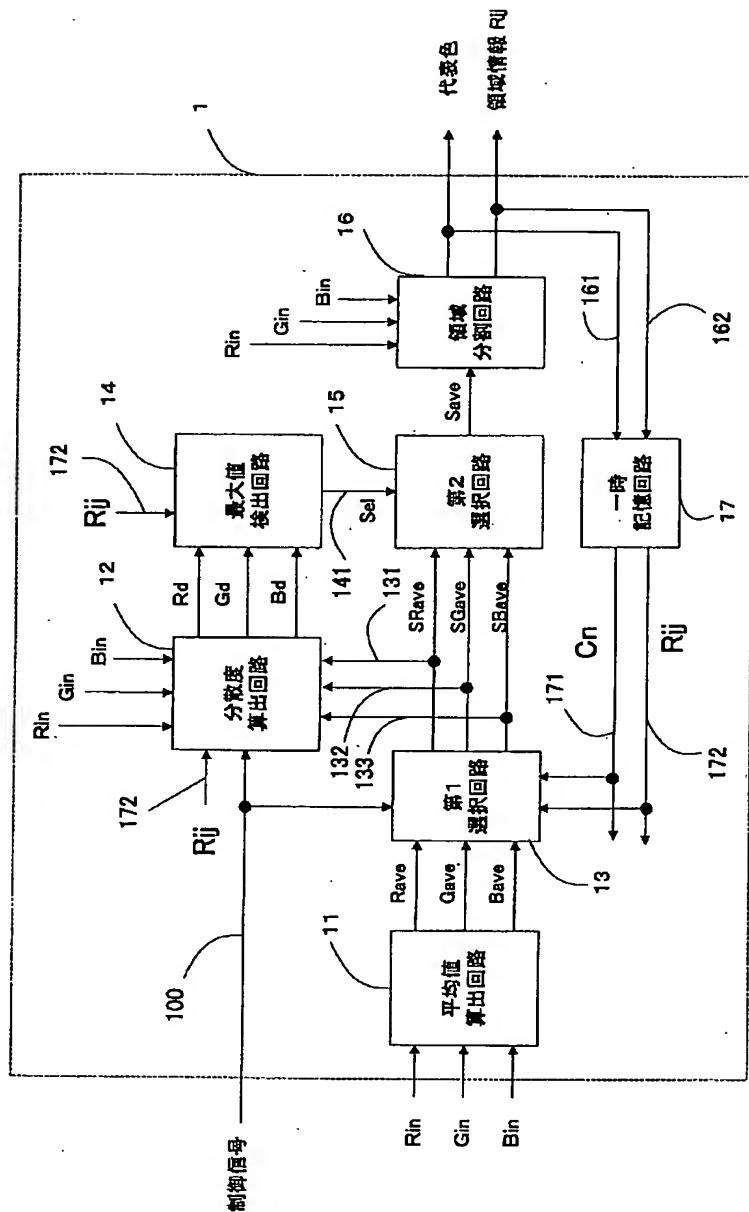
【図12】



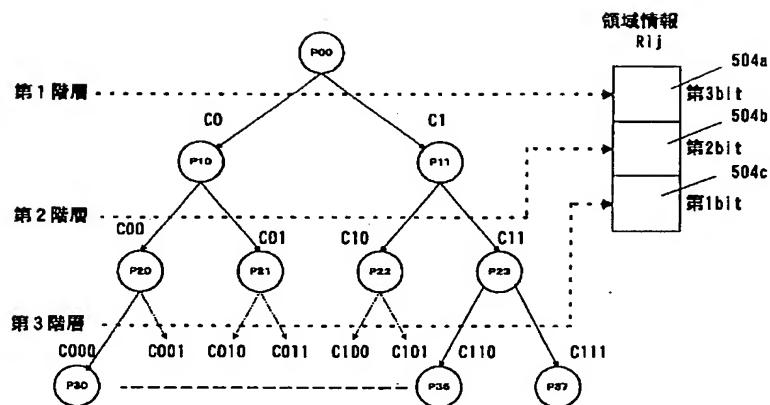
【図5】

501	506					
入力信号	平均値	分散値	選択値	領域情報	Rij	代表色 Cn
$r_{ij}$ 	Rave 11.6875	Rd 22.25			$R_{ij} = 1$ のとき $C_{ij} = C_0$ $R_{ij} = 0$ のとき $C_{ij} = C_1$	$C_0 = (R_a, G_a, B_a)$ $R_a = 13$ $G_a = 12$ $B_a = 10$ $C_1 = (R_b, G_b, B_b)$ $R_b = 10$ $G_b = 8$ $B_b = 8$
$g_{ij}$ 	Gave 10.3125	Gd 31.75	Save 10.3125	$g_{ij} > Save$ のとき $R_{ij}=1$ $g_{ij} \leq Save$ のとき $R_{ij}=0$ 但し $ij:1 \sim 4$		
$b_{ij}$ 	Bave 9.8125	Bd 21.375				

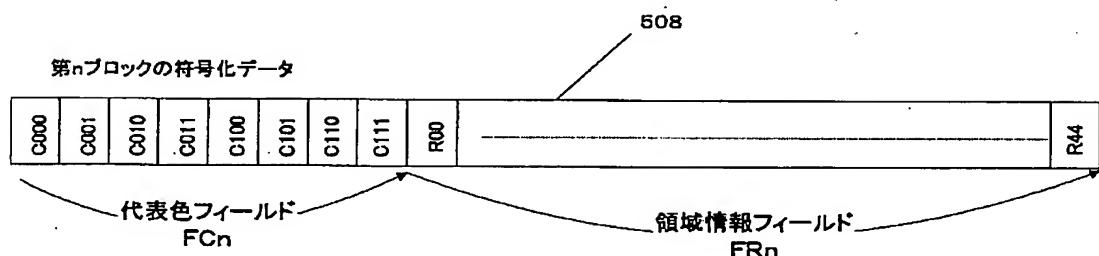
【図4】



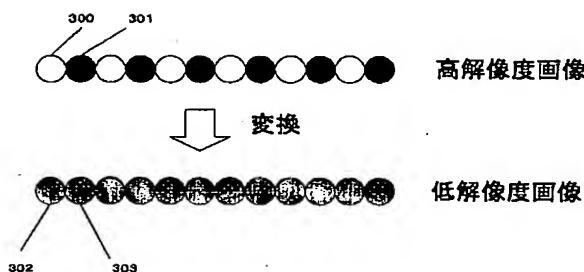
【図6】



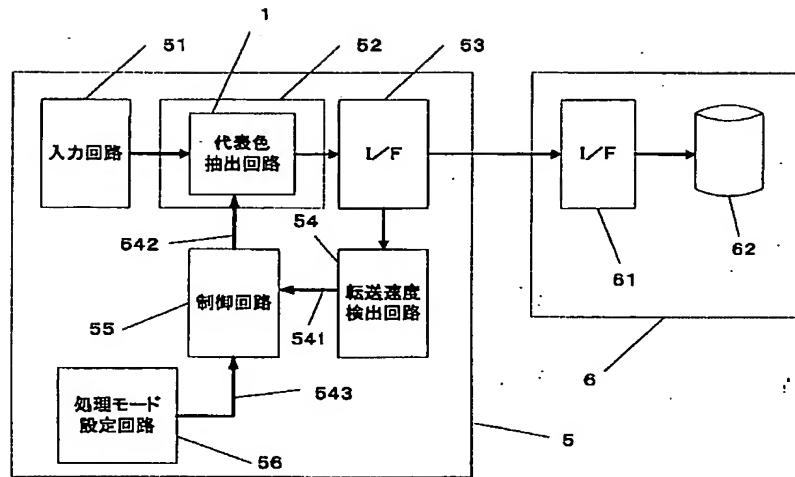
【図7】



【図11】



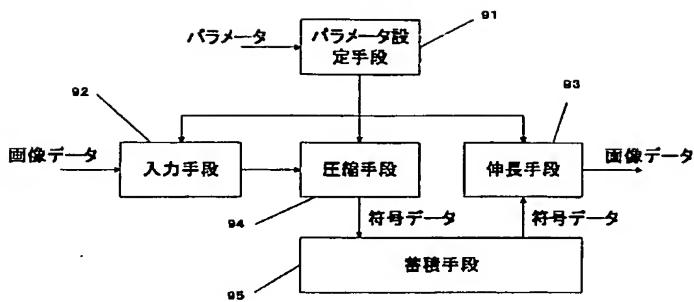
[図8]



[図9]

			制御パラメータ	
処理モード	設定モード	圧縮率	小領域の大きさ	近似色数
文字モード	1	1/6	4X4	2
	2	1/3	4X4	4
写真モード	3	1/4	8X8	8
	4	1/6.4	16X16	8

【図13】



## フロントページの続き

(51)Int.Cl.	識別記号	F I	マーク (参考)
H 04 N	1/40	H 04 N 1/40	D 5 C 0 7 9
	1/41		F 5 J 0 6 4
	1/46	1/46	Z 5 K 0 3 4
	1/60	H 04 L 13/00	3 0 7 C
// H 04 N	7/24	H 04 N 7/13	Z
(72)発明者	桑原 康浩 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内	F ターム (参考) 5B057 CA01 CA08 CA12 CA16 CB01 CB08 CB12 CB16 CD05 CE16 SC059 LB05 LB11 PP01 PP02 PP11 PP15 PP20 TA06 TA08 TA11 TA12 TB08 TC02 TC24 TC37 TC38 TC39 TD02 TD03 TD04 TD05 TD06 UA02 UA05 UA32 SC076 AA01 AA21 AA22 AA26 BA06 SC077 MP08 PP20 PP27 PP28 PP32 PP37 PP43 PP46 PQ18 RR21 SC078 AA09 BA44 CA01 CA35 DA01 DA02 SC079 HA01 HB01 LA02 LA06 LA10 LA26 LA37 5J064 AA00 AA02 BB10 BC01 BC21 BC25 BC28 BC29 BC30 BD02 BD04 5K034 CC02 MM08	
(72)発明者	黒沢 俊晴 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内		
(72)発明者	物部 祐亮 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内		
(72)発明者	奥 博隆 大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器 産業株式会社内		